

第3回

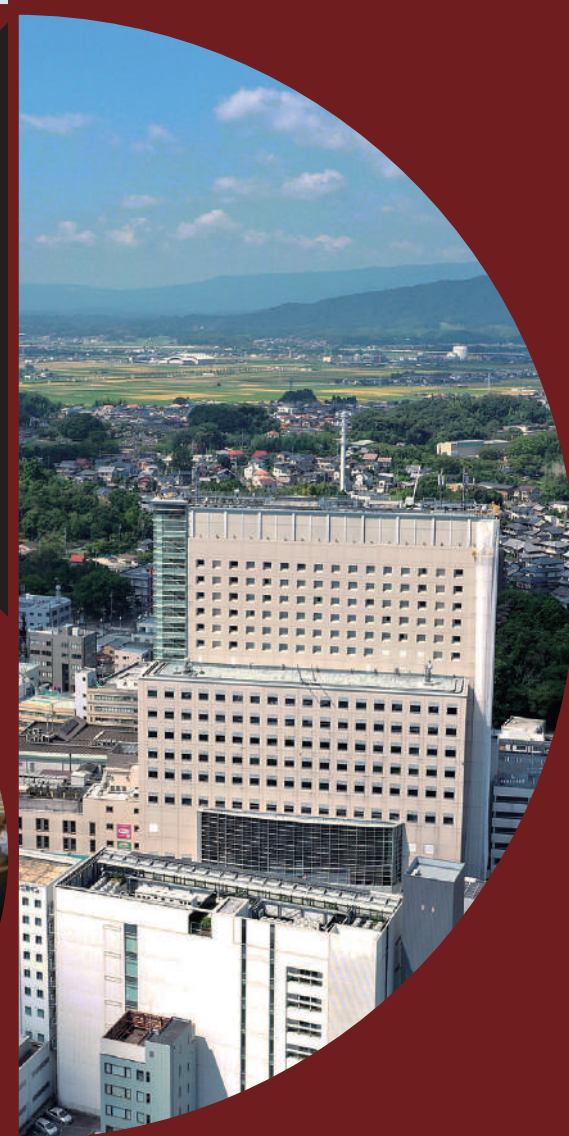
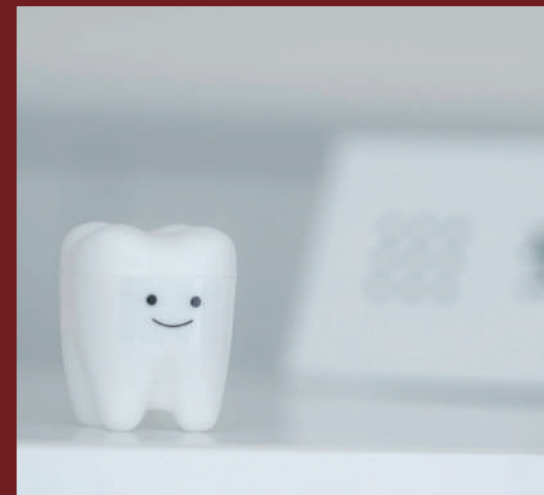
Winter Dental Meeting in Tsu

ウインターデンタルミーティング in 津

WDMiT Webサイト



<https://www.wdmit.com>



主催：Winter Dental Meeting in 津 実行委員会

WDMiT事務局 三重大学医学部附属病院歯科口腔外科
Mail: info@wdmit.com TEL: 059-232-1111 (内線5635)

2022
12/11日

時間：9:50～（9:30開場）
会場：アストプラザ4F

Winter Dental Meeting in Tsu ウインターデンタルミーティング in 津

— 開催のご挨拶 —

新型コロナウイルスの感染拡大から3年が経過しようとしています。終息は見えていないものの、ワクチン接種の拡大や経済活動の維持から「新しい生活様式」が提唱されウイズコロナの時代に入っています。コロナと共に歩み出した“WDM in 津”。今年も3回目を開催させていただき運びとなりました。

2022年を振り返ってみると真っ先に挙げられるのがウクライナ情勢です。ロシアは天然ガスの世界第2位の供給国であり、ヨーロッパはもちろん世界経済に大きな影響を及ぼしています。CO₂による気候変動に大きな関心がもたれている中、経済社会が未だ化石燃料に依存している限り、エネルギー危機の発生が不可避であることが、ウクライナ侵攻により改めて認識されました。

今回の特別講演には「エネルギー事情の変化」をテーマに日本の柱である自動車産業界からトヨタグループ会社である㈱デンソー元取締役副社長、若林宏之氏(津市在住)をお招きし「自動車のEV化動向とエネルギーmix ～EVは本当に今後の本命なのか～」と題して講演をいただきます。教育講演では三重大学医学部附属病院小児・AYAがんトータルケアセンター長、岩本彰太郎先生にお願いし、医療的ケア児と家族の現状と連携の必要性について歯科医療関係者と共有し、地域医療者として関われることを一つでも増やしていただけたらと「医療的ケア児の成長・発達を支えるために医療者ができること」と題して講演していただきます。

長らくの新型コロナの影響で一般演題が少なかった中、今年は多くの演題を応募いただきありがとうございます。みなさんの研究や臨床現場からの成果を広く発表いただき活発な議論と交流の場となればと願っております。また、協力いただいております企業様にも感謝申し上げます。協賛企業による展示ブースや参加者の交流の場としても利用できるドリンクコーナーも設けていますので是非ご活用ください。

ウインターデンタルミーティングは学術交流の場としての県内の歯科関係者の集まりであり、皆で育む集いになることを願っております。皆様にお会いすることを楽しみに、多くの方々のご参加をお待ちしております。

ウインターデンタルミーティング in 津
実行委員会 委員

第3回大会長 鈴木 品博



■特別講演【13:00～14:00】

「自動車のEV化動向とエネルギー Mix
～EVは本当に今後の本命なのか～」

(株)デンソー 元取締役副社長

講演者：若林 宏之 氏



講演内容 -----

増加するCO₂による気候変動が世の中の大きな関心事になっている中で、自動車は世界的な動きとして、走行時にCO₂排出量の多い内燃機関の車からCO₂の排出の少ないハイブリッド車、プラグインハイブリッド車、更にCO₂を排出しないEVや水素燃料電池を用いたFCVへの移行が進んでいます。しかし、CO₂の排出という観点では走行時に排出するCO₂の量だけではなく、自動車を製造する過程で排出されるCO₂の量や自動車を廃棄・リサイクルする過程で排出されるCO₂の量のトータルのCO₂量が重要です。このような観点から現在の自動車のEV化が本当にCO₂低減の解になっているのかを考えてみたいと思います。

■教育講演【15:00～16:00】

「医療的ケア児の成長・発達を支えるために医療者ができること」

三重大学医学部附属病院小児・AYAがんトータルケアセンター長

講演者：岩本 彰太郎 先生

講演内容 -----

日常的に、酸素や喀痰吸引等の医療的ケアを必要とする子どもを「医療的ケア児」といい、全国で約2万人、県内で約300人を数えます。昨年、医療的ケア児支援法の施行を受け、各都道府県に医療的ケア児相談支援センターの設置が義務付けられ、当院も三重県医療的ケア児・者相談支援センターを担うこととなりました。今回、同センターの活動報告とその役割を説明するとともに、これまでに取り組んできた県内の医療的ケア児と家族に対する支援の実践を紹介いたします。特に、“医療者間連携”の中では、歯科医師の皆さまと今後の医療的ケア児の歯科診療の在り方を一緒に検討できればと思います。



A会場(アストホール)

▶9:50～ 開会の挨拶(鈴木 晶博)

▶10:00～10:35 【座長:清水 香澄】

1 歯科治療後に止血に難渋したステントグラフト挿入術後の播種性血管内凝固症候群の1例

三重大学 口腔・顎顔面外科学分野

○奥田 悠大、清水 香澄、宮崎 優里、新井 直也

大動脈解離および大動脈瘤の患者では、動脈瘤内面での凝固活性化と線溶亢進により播種性血管内凝固症候群(DIC)をきたすことがある。今回、大動脈解離に対してステントグラフトの挿入術が行われた患者に歯科治療を行った際、DICによる出血傾向のため止血に難渋した症例を経験したので、文献的考察を加えて報告する。

2 下顎に生じたMicrocystic adnexal carcinomaの1例

紀南病院 歯科口腔外科 / 三重大学 口腔・顎顔面外科学分野

○堀 晃二、糸川 美智子、乾 眞登可

微小嚢胞性付属器癌(Microcystic adnexal carcinoma:MAC)は、1982年にGoldsteinらにより提唱された皮膚付属器由来の比較的稀な悪性腫瘍である。今回我々は、下顎に生じたMACの1例を経験したので若干の文献的考察を加え、その概要を報告する。

3 口蓋中央部にみられた過剰歯の1例

三重病院 歯科口腔外科

○松村 佳彦、堀 琴雅、山本 葉月、金城 優

症例は10歳の女児で、上顎の埋伏過剰歯を指摘され当科に紹介された。CTにて口蓋中央部に逆性の埋伏過剰歯を認め、口腔側は口蓋骨が過剰歯の歯冠により圧排膨隆し、鼻腔側では上顎骨を越え鼻腔粘膜内に突出していた。手術侵襲軽減のために口蓋中央の膨隆部にU字の切開を加え、抜歯を行った。口蓋中央部のまれな過剰歯を経験したので報告する。

▶10:35～11:20 【座長:藤田 剛】

4 修復象牙質形成における象牙芽細胞の役割の解析

三重大学医学系研究科 幹細胞発生学

○松山 加乃、磯野 加奈、山崎 英俊

我々は、象牙芽細胞特異的遺伝子Dsppの遺伝子座に緑色蛍光タンパク(GFP)とTamoxifen誘導型mer-cre-merを挿入したDsppGFP-mer-Cre-merマウスと、Creの存在下で赤色蛍光タンパク(tdTomato)とジフテリアトキシン受容体を発現するマウスを作成した。第一大白歯を削合し、GFPを指標にDsppの発現及びTamoxifen投与後のtdTomatoの発現とDT投与後の象牙芽細胞の生存と修復象牙質の形成における象牙芽細胞の関わりを検討した。

5 エナメル質或いは象牙質形成不全症を呈すマウス象牙質でのデンチン及びエナメルマトリックスタンパクの発現

三重大学医学系研究科 幹細胞発生学

○磯野 加奈、松山 加乃、山崎 英俊

我々は、エナメル質タンパクのAmelogenin及び象牙質タンパクのDsppの欠損マウスを作成した。前者はエナメル質形成不全症様を、後者は象牙質形成不全症様を呈した。両方の欠損マウスは、象牙質とエナメル質の異常を呈した。我々は、これらの異常を持つ歯でエナメル質タンパクや象牙質タンパクによる歯の補償機構を調べたので紹介したい。

6 下顎第二小白歯先天欠如を伴う不正咬合に対し矯正歯科治療を行った3症例

津のまち矯正歯科

○佐藤 忠、阪本 成美、北嶋 風花、小林 由佳、花尻 奈都代、鈴木 悠華、尾崎 友希乃、酒井 瑠依、酒井 璃音、佐藤 佳見

下顎第二小白歯先天欠如は部位別発現頻度で最も多く、時折臨床において遭遇する。放置により更なる不正咬合の発現を招く可能性があるが、同部位に対しては慎重な治療方針が望まれる。今回、矯正歯科治療により同部位を空隙閉鎖または補綴前処置としてスペースを確保するなど3症例を経験したので若干の考察を加え報告する。

7 Er・YAGレーザーを用いて除染を行ったインプラント周囲炎の治療症例

のだ歯科クリニック

○野田 豊作

近年、インプラント周囲炎に対して様々な治療法が試みられており、Er・YAGレーザーの使用もその一つである。今回、インプラント周囲炎に対してEr・YAGレーザーを用いてインプラント体の表面を除染した後に再生治療を行い、約2年10ヵ月経過した症例について報告する。

▶11:20～12:00 【座長:萬好 哲也】

8 成人にみられた開咬の進行

戸田歯科医院

○戸田 喜之

初診は一般的な主訴で、治療後定期健診を行っていると、徐々に開咬が進行してくる症例に遭遇した。咬合調整を少しづつ行い、増悪しないかと心配しながら経過観察している症例を提示する。

9 咬合力と2次カリエスに悩まされた30年経過の1症例

医療法人尚志会 林歯科医院

林 尚史、森田 寛

本症例は開業日に来院した患者で、主訴は右上6の疼痛、52歳男性、初診時口腔清掃不良で、既に臼歯部に4歯欠損があり、咬合支持は11、14歯が補綴されており歯周病的にも広汎型重度慢性歯周炎であった。現在83歳になり、歯周病は安定しているが30年間に歯根破折から2歯失った。メンテナンスの重要性を再認識させられたので報告する。

■ 一般演題

10 GBRにおける濃縮血小板フィブリンゲル(CGF)応用の臨床報告

津歯科医師会

○吉田 正

CGFとは、採血で得られた患者の血液をガラス管内にて遠心分離することで精製できるフィブリン(タンパク質)ゲルである。精製したフィブリンゲルは、成長因子を7～14日間にわたり放出することで創傷治癒を促進する。このCGFをインプラント治療時のGBRに応用したので、その有効性について報告する。

11 根管洗浄 ―薬液洗浄とレーザーキャビテーション―

津歯科医師会

○米本 和顕

根管治療において交互洗浄を行わないことは周知の事実となっているが、改めてその注意点や補足事項をおさらいしたい。また、レーザーキャビテーションと言われるレーザー機器を用いた根管洗浄も存在し、その手法についても紹介する。

▶12:00～13:00 昼食休憩

■ 特別講演

▶13:00～14:00 【座長:鈴木 晶博】

「自動車のEV化動向とエネルギーMix
～EVは本当に今後の本命なのか～」

(株)デンソー 元取締役副社長 講演者:若林 宏之 氏

■ 一般演題

▶14:15～14:45 【座長:松本 由美】

12 もっと知って欲しい! 担当制歯科衛生士3つの魅力

飛翔会(三重県立公衆衛生学院同窓会)・はしもと歯科

○世古 恵子、エィガン 直美、諸戸 直世、磯田 由佳

歯科衛生士が担当制でおこなう歯周治療は、歯科衛生士の強みをより発揮でき、長く仕事を続けることに繋がるのではないかと考える。学びがあったり、やりがいを感じたりと、歯周治療には様々な魅力があるが、中でも特に知っていただきたいポイントを3つにまとめた。歯科衛生士として自信を持ち、患者さんとより良い関係を結ぶための手助けとなれば幸である。

13 歯周治療における歯科衛生士の役割

菰野きむら歯科

○宇井 みゆき、坂 文子、木村 恵美、木村 雅之

臨床において治療成果を求める上で、病状や病因に対する患者の正しい理解と治療への協力は不可欠である。患者の近くでサポートする歯科衛生士は、歯周基本治療、またその後につづくSPTにおいても多くの役割を担う。重度歯周炎の患者に対し、非外科にて病状安定に至った一症例を元に、歯周治療と歯科衛生士の関りを発表する。

■ 教育講演

▶15:00～16:00 【座長:福森 哲也】

「医療的ケア児の成長・発達を支えるために
医療者ができること」三重大学医学部附属病院 小児・AYAがん トータルケアセンター長
講演者:岩本 彰太郎 先生

■ 一般演題

▶16:00～16:40 【座長:新井 直也】

15 学校での歯科保健教育

ふくもり歯科

○古田 佳奈美、福森 哲也

学校歯科保健は、保健教育・保健管理・組織活動から構成されている。担当中学校の12歳児DMF歯数は男子0.42、女子0.46と全国平均0.63より少ない。保健教育の際には生徒にう蝕のメカニズム、ブラッシング方法に加えて、飲料中の糖分と酸性度を理解させている。また、要観察歯COについてもその意味を説明している。それら歯科保健活動の内容を紹介する。

16 当院における心身障がい者歯科治療の長期経過報告

岩崎歯科医院

○佐藤 佳見、達野 敬子、山中 絵美、玉田 愛子、林 智美、中島 千夏、岩崎 均

当院では開業当時より、一般歯科治療とともに心身障がい者歯科治療を続けてきた。今回1980年から2022年までの回顧的調査を行い、地域医療において障がい者歯科治療での口腔衛生管理が継続的に行われることの重要性を報告する。

17 歯周治療における歯周ポケットの変化について考える

医療法人社団 藤田歯科

○藤田 剛

歯周病の診断には、一般的にはプロービングポケット深さ(PPD)が用いられている。歯周病の重症化に伴いPPDは大きくなり、また歯周治療によってその値は小さくなる。その値の変動する過程において、歯周ポケット内では様々な変化が起こっていると考えられる。本発表では、歯周ポケット内でどのようなことが起こっているかについて考察したい。

B会場(研修室A)

■ 一般演題

▶ 11:20～12:00 【座長:野村 城二】

18 当科におけるAORNJの臨床的検討

桑名市総合医療センター 歯科口腔外科

○加藤 英治、古島 夏子、濱口 桂、大塩 美佐絵、福田 奈央、櫻谷 妃菜

ビスホスホネートやデノスマブなどの骨吸収抑制薬に関連したARONJは2003年に最初の症例が報告されてから20年近くが経つ。これまでに種々の予防法や治療法が提案されてきたが、依然として日常診療において対応に難渋することが多い。今回、当科にて2021年4月より2022年9月までに経験したARONJ症例に関して臨床的検討を行ったので報告する。

19 新しく発表された英語版の顎骨壊死ポジションペーパー2022の概説

三重大学 口腔・顎顔面外科学分野

○滝川 享、新井 直也

今年、米国で骨吸収抑制薬関連顎骨壊死(ARONJ)ポジションペーパーの2022年版が発行され、この米国版を参考に日本でもポジションペーパーの改定が進められている。先月開かれた日本口腔外科学会で改訂版に関するシンポジウムがあり、早期の外科手術の有用性などいくつかポイントが示されたので、現在使用されている2016年版との違いを中心に概説する。

20 下顎埋伏智歯抜歯時に縦隔下部に至る広範な気腫を生じた1例

三重中央医療センター 歯科・歯科口腔外科

○若林 宏紀、乾 眞登可、加納 慶子、柳瀬 成章

下顎埋伏智歯抜歯の偶発症に、エアタービンによる皮下気腫がある。皮下気腫は急激な顔面や頸部の腫脹および腫脹部を触診したときに捻髪音が特徴であり、治療では気腫改善までの感染予防が重要となる。今回、下顎智歯抜歯時に縦隔下部に至る広範な気腫を生じた1例を経験したので報告する。

▶ 12:00～13:00 昼食休憩

■ 一般演題

▶ 14:15～14:55 【座長:新井 直也】

21 当院外来化学療法室における口腔管理活動の現状と今後の課題
—アンケート調査から—

伊勢赤十字病院 歯科口腔外科

○木田 莉里佳、橘谷玲香、長谷川莉彩、野田夕加、荒木弘子、岩本哲也、
中村真之介、野村城二

当科では2016年より当院外来化学療法室において抗がん剤治療を受ける患者に対し、口腔衛生相談を中心としたラウンドを実施している。そこで今回は、現状を報告するとともに、2016年と2022年に患者に対して施行したアンケート調査から、外来化学療法室ラウンドの効果と今後の課題について検討したので報告する。

22 化学療法中の口腔粘膜炎による摂食不良に対して
口腔ケアが効果的であった1例

済生会松阪総合病院 歯科口腔外科

○前川 礼子、日浦 美和、梅田 みさき、松田 未来、野田 のりか、西井 涼、
松田 未梨、鈴木 康昭、長田 宗一郎、密田 正喜仁、大倉 正也

悪性腫瘍に対する化学療法の有害事象は口腔領域においても発症することが多い。特に口腔粘膜炎による疼痛は経口栄養摂取の妨げとなり、闘病意欲やQOLの低下だけでなく全身状態にも大きな悪影響を与える。今回、化学療法により発症した口腔粘膜炎の改善と、悪化したPNI(予後栄養指数)の上昇が認められた症例を報告する。

23 矯正歯科治療の時期と目的による歯科衛生士の対応の違いについて

津のまち矯正歯科

○小林 由佳、阪本 成美、北嶋 風花、花尻 奈都代、鈴木 悠華、
尾崎 友希乃、酒井 瑠依、酒井 璃音、佐藤 佳見、佐藤 忠

矯正歯科治療は時期により3ステージに分けられ、顎骨成長や萌出誘導などを図るⅠ期、審美的改善および個性正常咬合の確立を図るⅡ期、将来に備え口腔内環境を整える40代以降の治療と各ステージの目的が異なる。今回、矯正歯科治療の理想的な結果を得るために、各ステージにおいて歯科衛生士が求められる対応の違いを検討したので報告する。

24 三重病院での医療的ケア児・者の歯科診療(第2報)

三重病院 歯科口腔外科

○松村 佳彦、金城 優、堀 琴雅、山本 葉月

令和3年9月に「医療的ケア児及びその家族の支援に関する法律」が施行された。三重病院では小児の基幹病院として多くの職種が支援に携わっている。今回、三重病院での医療的ケア児・者の歯科診療について、多職種による支援の現状も踏まえて報告する。

▶ 16:40～ 閉会の挨拶(福森 哲也)
※A会場(アストホール)にて

Schedule

会場別 日程表

A会場 (アストホール)		B会場 (研修室A)	
9:50～ 開会挨拶			
10:00～10:35 一般口演 1～3 【座長:清水香澄】	1. 奥田悠大		
	2. 堀 晃二		
	3. 松村佳彦		
10:35～11:20 一般口演 4～7 【座長:藤田 剛】	4. 松山加乃		
	5. 磯野加奈		
	6. 佐藤 忠		
	7. 野田豊作		
11:20～12:00 一般口演 8～11 【座長:萬好哲也】	8. 戸田喜之	11:20～12:00 一般口演 18～20 【座長:野村城二】	18.加藤英治
	9. 林 尚史		19.滝川 亨
	10.吉田 正		20.若林宏紀
	11.米本和顕		
12:00～13:00 昼食休憩			
13:00～14:00 特別講演 若林宏之氏 【座長:鈴木晶博】			
14:15～14:45 一般口演 12～14 【座長:松本由美】	12.世古恵子		
	13.宇井みゆき		
	14.加藤由美子		
15:00～16:00 教育講演 岩本彰太郎先生 【座長:福森哲也】			
16:10～16:40 一般口演 15～17 【座長:新井直也】	15.古田佳奈美		
	16.佐藤佳見		
	17.藤田 剛		
16:40～ 閉会挨拶			

Please

発表者の方々へ

- 発表形式:スライド単写、横スライドのみ、枚数制限なし。
- Microsoft office 365 PowerPoint を用います(Mac使用の方は実行委員会までご連絡ください)。
- 口演時間7分、質疑応答3分
- 本大会の抄録は三重医学会雑誌に掲載致します。三重医学会雑誌の投稿規定に沿う必要があるため、500字以内の抄録を右記のメールアドレス(3rdwdentalmeeting@gmail.com)まで送付してください。
- 事後抄録は、演題番号、演題名、所属、氏名(筆頭演者に○)、抄録内容をWordまたはテキストファイルにて記載してください。

座長の方々へ

- 時間厳守をお願いします。10分前までに次座長席へお座り下さるよう、よろしくお願いします。

Floor Map

